



「コロナのあとにくるものは...」

始業式・入学式と翌日の2日間登校しただけで突入した今回の臨時休業。緊急事態宣言が全国に拡大され、5月7日の学校再開も依然不透明なままでです。保護者の皆様はこんな中、様々なご苦労をなさいながら、わが子を育てていらっしゃるのだろうとお察しをいたします。ほんとうに大変なことです。

さて、このところ気がかりなことがあります。心がすさんできているのか、この新型コロナ禍による攻撃的な言動が社会にあふれてきているなど感じます。感染者に対するネットでの批判や中傷は止むことを知りません。アメリカではアジア系の人に対する差別や攻撃が続いています。言うまでもなく、誰ひとりとして罹患(りかん)したくて感染した人はいません。一番つらい思いをしているのは感染した本人であり家族です。そんなことはしっかりと教育を受けてきた大人ならば分かりそうなのですが、こんな蛮行に走っている人が少なくない。



専門家が言うように、いずれこの新型コロナは一定の落ち着きを迎えるでしょうが、問題はそのあと。福島第1原発事故による放射能汚染に関連した子どもたちへのいじめや差別のようなことが起こらないだろうか。このコロナのあとにくるものが、同様の差別と偏見を背負ったものであってはならないと強く思います。

そのためにも、人を思いやる感性を確認しつつ、おやっ、何か変だぞ、と違和感を感じた時は誰かに伝える。話す。そして、人を支え、支えられ、よりそう優しさが随所で光るコロナ後の社会をあきらめてはならない。こんな時だからこそ、藤城小学校の学校教育目標「思いやりの心をもって、生き生きと活動する子」は光る。

藤城小学校 今年のスローガンは 「なりたい自分をあきらめない」

～そのために伸ばしたい子どもの4つの力～ ①人を大切にする力 ②自分の考えをもつ力
③自分を表現する力 ④あきらめずに挑戦する力

（以下は入学式のなかでお話ししたかったことですが、時間短縮でお伝えできなかったことです。）

詩人、金子みすゞに「こだまでしょうか」という短い詩があります。

「遊ぼう」っていうと 「遊ぼう」っていう。／「馬鹿」っていうと 「馬鹿」っていう。／
「もう遊ばない」っていうと 「遊ばない」っていう。／そして、あとで さみしくなって／
「ごめんね」っていうと 「ごめんね」っていう。／こだまでしょうか いいえ、誰でも。



「こだまする」ことで 子どもは ...

東日本大震災のあと、「ポポポポヘン」とともにテレビのコマーシャルで何度も流れていますので、記憶にある方も多いかと思います。この詩については「優しい言葉かけには、優しい言葉が返ってくるんだよ」と一般的にはとらえられていますが、金子みすゞの詩を発見した矢崎さんという方は、次のようにおっしゃっています。

かつて、私たちの周りにいた大人たちは、こだましてくれる人たちでした。こだまとは、『丸ごと受け入れる』こと。道端で転んで「痛い」と叫んだとき、親は「痛いね」と私の痛さを丸ごと受け入れて返してくれました。それによって痛みは半分になる。そして、おじいさんやおばあさんはもっと上手に、「痛いね、痛いね、よし、よし。」と何度も繰り返したあとに、「痛いの、痛いの、飛んでいけ。」の呪文。おかげで痛みは完全に消すことができた、と。

私自身、我が身を振り返って反省しました。「痛い！」と叫ぶわが子に、「痛くない」と否定したり、「我慢しなさい」と励ますことだけになっていなかっただろうか。こだましてもらうことで痛みは消えていくのに、否定や励ましだけでは、消えることなく、ずっと残ってしまう。

大人と子どものこだまする関係。そんな中で、子どもたちは認められ、安心し、次第に自分の足で歩き始めます。わが子の成長のために、共に考え、こだまする関係づくりを進めていきましょう。

重要連絡

- ①ホームページをチェックしてください。学年ごとのメッセージや学習のヒントが載っています。
- ②6月6日(土)の休日参観は中止します。したがって6月8日(月)は授業日(給食あり)となります。
- ③定期の家庭訪問は行いません。気がかりなことや相談したいことなどがあればご連絡ください。
- ④学校からの連絡事項等はホームページにて行っていますが、PTAメール配信のご登録もお願いいたします。